

ルルドの丘

2012
2月
No.22



目次

みことば・きらりん	2
巻頭言	3
ヴォイス(1)	4
おでかけ・できごと	6

ヴォイス(2)	8
ぽっかぽか	10
ぴかぴかぴか・寄贈・感謝	11
行事予定・編集後記	12

社会福祉法人 聖母の騎士会
恵の聖母の家

▼「みことば」では聖書等の御言葉をお伝えします ▼「きらりん」では皆様の活動をお知らせします

みことば



あなたに欠点があったとしても わたしはやさしく受け止めるだろう。
心の中に美しい絵を思い描き、これを完璧だと思っても、それは愛ではない。
人間をあるがままに、欠点があっても、心から愛をもって受け入れること。
これが愛である。

シャルlotte・アン・シラー

きらりん スマイリーズ

福祉レクダンス“スマイリーズ”野津町歳末チャリティーショー出演
2011年11月27日(日)、臼杵市野津町で開催された「第七回歳末たすけあいチャリティーショー」に当園の福祉レクダンス(スマイリーズ6名)が出演し、市民の方々にダンスを披露しました。

「てんとう虫のサンバ」と「涙くんさよなら」の懐かしいナンバーをお揃いの衣装を着て、なごやかに踊ることができました。

最初は、皆少し緊張していましたが、保護者の方や職員の応援、何よりも会場の皆さんからの手拍子を受け、メンバーそれぞれがいつもと違う柔らかな表情で嬉しそうにしていました。インタビューでは、マイクを向けられると、顔を真っ赤にして声を出そうとしたり、その隣りから元気に返事をして、会場を笑いで包みなごませる場面もありました。

出演後、メンバーは観に来たご家族に「上手だった。良かったヨ」と、褒められて嬉しそうにしていました。ご家族の方々も、堂々と舞台上に立つ我が子を見ることができて、喜んでおられました。

一昨年まで、開催されていた「おもちゃ箱コンサート」がなくなり、地域に出かけ発表する機会を探していた所に野津町社会福祉協議会から声を掛けて頂き、今回の出演ができました。応援して頂いたご家族や恵の聖母の家の入所者・職員の皆さんに感謝申し上げます。また、今後も地域への交流参加へ、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

(生活福祉課 保育士 廣田 由美子)

表紙写真は野津町チャリティーショーに出演したスマイリーズの様子です

巻頭言

園長 佐藤圭右

当園では、昨年末に、今年四月からの開設を目指している医療型児童発達支援センターの体制を整えるべく、園内組織の変更と、役職任免に関する就業規則の一部改正を行いました。

その、役職者の登用ですが、今回から希望者の公募とポイント制による業績の評価を打ち出しています。

役職希望者の公募ですが、自薦、他薦を問わずとしています。最終的には本人による申し込みが必要、立候補してもらうこととしました。そこで、複数名の立候補があれば、次にその立候補者の中で、最も業績のポイントが高いものを自動的に選ぶ(幹部会の承認は必要、という評価システムにしました。

これまで、職員同士の中で、あるいは管理職の目から見て、あの人なら役職を任せられそうだと、という人を選び、役職者に登用してました。これであれば、まず役職者選別に間違いはないと思われれます。しかし、その過程で、選考基準が明快でない、上司に睨まれれば昇任の機会はないそんな事実はないので…、などの問題点も、一部の職員から聞いていました。その「ポイント」ですが、基本的には学会などでの発表とその論文、または参加、研修への参加、資格の取得などにそれぞれポイントをそ

の規模などに応じて振り分けています。

さてここで、評価の対象となる、学会、研究会への参加や発表だけでは、役職者になるのがふさわしくない人も選ばれてしまう、研究だけが評価対象ではない、という声もあることは承知しています。しかし、日常の業務を評価することとなると、それを透明性を持って再評価可能な形で客観的に数値化する方法は調べた範囲ではなく、選考基準が明快でないと指摘された以前の方法と同じになってしまいます。

そもそも、研究とは何でしょうか？

自分が日常の業務をしていて、ふと思った疑問、このようにすればより利用者さんの生活の改善につながるのではないかと気付くこと、気付きから始まります。そしてそれが過去に似たような事例がなかったか、教科書、医学雑誌、教育雑誌などで調べます(文献検索・調査。過去に似た事例がなければ、新しいことに取り組むこととなります。

まず、こうすれば、こうなるだろうという仮説を立てます。その仮説も思い付きではなく、いろいろな文献から、根拠のあるものをつなぎ合わせて理論立てます。それを効果的に検証するために、対象と方法を組み立て、倫理的配慮も行います。まず健常者が対象となることもあ

ります。

その上で、利用者さんを対象に試みて、その結果を求めます。もちろん、一人ではできないことも多いでしょう。多くのスタッフに協力してもらうこととなります。その得られた結果を元に、再度文献などで検証し、仮説が正しかったかどうか、結論を導きます。

その結果、得られたものを、限られた時間の中で、わかりやすく聴衆に伝えなければなりません。質問、意見があれば説明できなければなりません。その上で、それらの意見を踏まえて論文が仕上がります。

いかがでしょうか。気付くこと、調べること、皆と協力すること、説明することなど、研究をするということには、リーダーとして必要な条件がそろっていると思います。

そのような人材も育てていきたいと思えます。

放射線



老人と趣味

放射線課 清永 高明

昔何かの本で、キングオブホビーとは模型の事と書いてあったので、すっかりその気になって毎日作っていました。

最初は組み立てるだけだったが、筆でアクリル塗装をするようになり、模型雑誌の作例を参考にラッカーで塗装をするようになり、その後も順調に模型制作を趣味にしていました。勿論趣味ですから、道具にもジャブジャブお金を使い、エアブラシ・エアコンプレッサー等道具だけでもカラーボックス2〜3箱分も有り。プラモデルは大人買いで押入れ一杯に溜め込み、生涯プラモを買う必要が無くなったのでした。

その頃だったか、キングオブホビーの模型とは、帆船模型の事でプラモデルの事では無いと気づきました。が、既に遅すぎて引き返せません。

そこで、気がつかないふりをして改造模型の方へ全速力で突っ走るのでありました。作った作品はブログに載せて他のモデラー達と仲良くプラモを楽しんでいました。ネット仲間なので千葉や東京等遠方の友人ばかりでしたが、職種も住所も違う人達とのやり取りは色々な意味で楽しいものでしたが、世の中そう上手くは行きません。

小さなものが見えなくなって来たのです。そう、俗に言う老眼です。友人に話してみたら既に老眼鏡を買っていました。元々スケールモデルという物はリアルに造る為には細かい作業が不可欠です。1ミリは巨大な部類に入るので細かい物が見えなければ作業ができません。拡大鏡等を使っても、違和感が有りすぎて昔の感覚が維持出来なくなって来ました。結局十年以上頑張った趣味ともお別れです。

仕方ないので、次の趣味は実益をかねて料理にしました。嫁も喜ぶし、自分の好きなものを好きな味付けに出来るので非常に気に入って頑張れます。今の時代ネットで検索すれば、材料や作り方が簡単にわかるので簡単です。しかし、地方によっては味付けが全然違うので全て同じ様に作ったの

では好みの味には成らない事気がつくのにも、あまり時間は掛かりませんでした。

今は慣れてきたので材料と作り方を検索するだけで、味付けは我が家のオリジナルでいけるようになって来ました。それでは、良い事ばかりかと言うとそうとばかりも言えません。ご飯が美味しいので沢山食べて、体重増加！血圧上昇！大変なトラブル発生です。押入れ一杯分のプラモがゴミになった事より深刻な事態です。

仕方ないので今度は散歩を趣味に加えました。



訓練課

趣味



作業療法士 森矢 英子

みなさんの趣味は何ですか？趣味を持つことはとてもいいことだといわれています。幼児期から何かしら体を動かして「運動好き」の子供にしてあげること、肥満などを予防することもできます。また、そのことを続けることで自信が付き、ストレスが解消できれば感情の自己コントロールも出来るようになります。これは、芸術系の趣味にも通じるところがあります。とにかく「下手の横好き」でも「好きこそものの上手なれ」です。今趣味の無い方は、いちど、一歩を踏み出してみるのもいいのではないのでしょうか？

で、私の趣味は意外や意外、日本舞踊です。みんなから「似合っていない」と言われます。それはよくわかってはいるのですが、再開して二十年が過ぎてしまいました。地区の祭りや市の芸術祭で踊ったりしています。なかなか覚えるのが大変な時もありますが、皆さんに褒められたり喜んでいただけるとやはり気分のいいものです。しかし、今まで自分なりに満足して踊りきったものはありません。時々、これがストレスになっていることもありますが、日々、精進です。

これからも今度は「ボケ防止」のために続けていこうと思っています。

課 護 視



新職員による新年の挨拶

看護師 小手川 孝行

新年明けましておめでとうございませす。昨年の九月よりのぞみの丘で勤務をする事となり、早いもので入職してから四カ月が経ちました。

昨年を振り返ると、やはり三月十一日に三陸沖を震源に発生した東日本大震災が印象に残ります。テレビをつけると、津波による大災害やそれに続く原発事故の映像が繰り返され、同じ日本で起きている事なのにあまりに信じがたい映像に言葉も出ませんでした。魔法のことばというACのCMが今でも頭から離れず、あの音楽を思い出すだけで胸が痛くなります。偉そうな事は言えませんが、被災地の一日も早い復旧、復興を願いたいと思います。

話は変わり、私事ですが、丁度その頃ぐらいに転職について悩んでいた事を思い出します。看護師として十四年が経ち、年齢も三十五歳を迎え人生の中間地点に立っている最中、ここでは書けないようなあんな事やこんな事があります。七月に仕事を辞め、人生の夏休みを一ヶ月間とりました。楽しい時間は何故あんなに早く過ぎるのでしょうか？あつとつう間に時は過

ぎ、こちらでお世話になる事になりました。入職してからは覚える事もたくさんあり、あれよあれよと年末を迎え、今では夜勤も始まり、忙しい毎日を送っています。

私にとって昨年は出会いと別れの年でもあり、転職や人生の夏休み等心に残る思い出深い一年となりました。人間は「もう」と「まだ」の間(はざま)に生きているという言葉を感じた事があります。長い人生の中で三十六歳という中間地点に立った今。「もう」三十六歳ではなく、「まだ」三十六歳。向上心を忘れる事なく、良い一年だったなと振り返れるような年にしていきたいと思っています。

最後になりましたが、皆様本年も何卒よろしくお願ひします。



課 社 福 生



祝十周年!! 音楽クラブ「チエリーズ」

保育士主任 倉本 恵子

音楽クラブ「チエリーズ」が、グループ活動を開始してから、早十年が経過しました。園内では月一回のグループ活動とクリスマスの集い(三回)、地域ではほのぼのおおのラブライブ(一回)、おもちゃ箱コンサート(一回)への出演、練習も加えると延べ一五〇回前後の練習回数になります。

当初、個人々々の力を引き出せる楽器の選択に時間をかけました。ご本人の希望する楽器と、秘めた力を引き出せる楽器には相違がありました。しかし、いろいろな楽器に触れて実際に演奏し、グループ全員で検討することで自然と決まっていきました。支援者が事前にすべてを決めて、全介助で良い演奏をするという従来のスタイルから、利用者主体の活動として発足しました。支援者側が利用者に応じた様々な工夫を行い、利用者一人ひとりの育っていく過程を大切にすることで集団の力が育まれることや、音楽の力を借りることで個人の力が自然と発揮できると考えました。これまで、児者一貫で利用者の療育活動を行ってきたこと

が音楽クラブの活動の基本になりました。音楽を全身で感じ表現する感性のすばらしさと一生懸命に取り組む姿と、グループの仲間であり遂げる達成感や充実感などの経験を音楽クラブで生かしたいと思いました。

二〇一一年十二月に「クリスマス集い」の出演依頼がありました。多くの方々の前で演奏する嬉しさと目標を持って活動に臨める嬉しさと、そしてこれまでにない自分の役割をきちんと演奏の中で表現できるか心配だという別の思いがみられました。しかし、本番に向けて練習を重ねるうちに、二つの楽曲「ドレミの歌」「サンタが街にやってくる」が完成しました。舞台上では少し緊張した表情も見られましたが演奏を応援する会場からの大きな手拍子と音楽の力により、楽しい演奏を披露できたのではないかと思います。

今後も、素晴らしい音楽の感性を持つている音楽クラブ「チエリーズ」の一人ひとりの力を引き出せるような楽曲との出会いを大切に、活動を続けていきたいと思ひます。



＜クリスマスの集いに出演＞

できごと

進行は会場の皆さんと自己紹介をしながらスキンシップを図る内容もあり、とても丁寧なプログラムでした。小さな団員さんも顔を真っ赤にして一生懸命、目線を合わせて歌ってくれていました。榎の実の皆さんは帰りのバスの中で、いつも「来て良かった」と感想を話されているそうです。また次回、お会いできることを楽しみにしたいと思います。ありがとうございます。



2011年12月2日

日本重症心身障害児施設看護管理研修

別府で研修会が開かれ、12月2日に当園の見学がありました。各重症心身障害児(者)施設の看護管理者の皆様がたくさんお見え下さり、意見交換もさせていただきました。ありがとうございました。



2011年12月10日

クリスマスの集い

今回も臼杵ウインドアンサンブルの皆様とエコー・ド・ノートルダムの皆様が素敵な演奏とコーラスを聴かせて下さいました。当園で20年に渡って歌声を聴かせて下さったエコー・ド・ノートルダム様のコーラスが最後とあって入所者もとても残念な気持ちをお礼の言葉の中で伝えられていました。ありがとうございました。

感謝とともに今後の皆様のご活躍をお祈りしております。



2011年12月21日

もちつき

天気にも恵まれ、元気よくもちつきを行いました。今回は工事の関係で利用者の方は外でもちつきはできなかったのですが、香りや臼と杵の音、そしておいしいおもちを楽しまれたようです。



2011年12月25日

クリスマスごミサ

交流ホームで潔き聖母の家の皆さんと一緒に祈りを捧げました。会場はミサが始まる前は少し暗く、そこにイエスさま(のご像)が入ったことについて、神父様から「イエスさまは闇の中の本当の光であること」「どのような人でも一人ひとりに神様が与えた命がある」「お互いがいただいた命を認め合って育てていくことで世界平和につながる」と話して下さいました。ミサの後はサンタプレゼントが行われました。



2011年10月15日

ふれあい運動会

通園こだまの皆さんやその他、たくさんの方と一緒に競技やダンスで楽しみました。テーマは「みんなのちからできずなをふかめ しょうりのみちをすすもう」です。副園長先生の「がんばるぞー!!」の挨拶で始まり、競技の方は(8頁の通園こだまのコーナーにも書いていますが)おとぎ話の登場人物に変身したり、得点的をねらって大きな大砲を打ち、点数を競うもの、そして今回は競技の合間に「マルマルモリモリ」のダンスが披露されて多にもりあがりました。気になる勝敗ですが、今回はわずかの差で紅組の勝利となったようです。ご参加いただいた皆様、そして手伝っていただいたボランティアの皆様、ありがとうございました。



2011年10月19日

大分DMAT・防災ヘリとの連携訓練

現在の消防力では対応できない事象を想定して複数の機関との連携を図り、必要な救助を的確に実施できる体制確立を目的とした訓練が当園、臼杵市消防署、大分DMAT、そして防災ヘリとの連携で行われました。地震により孤立した社会福祉施設での負傷者を想定して、発見、救護、搬送の訓練を行っています。訓練は無事終了しましたが、今後も定期的な連携が必要だと感じさせられました。今回は地元メディアも複数来られ、訓練の様子が夕方のニュースで放送されました。



2011年11月13日

榎の実少年少女合唱団公演

今年も合唱団の皆さんが恵の聖母の家に来て下さいました。今回で5回目になります。結成されて33年目、3歳から高校生までで構成されていて、この日は50名の方がすばらしい歌声と歌を聴かせて下さいました。団員の方から「皆さんと歌えることを楽しみにしてきました」と挨拶があり、その言葉通り、交流ホームに集まった会場の方々に声だけでなく、視線を向けて、身体を動かして、歌の楽しさを伝えてくれました。今回は風船を使ったり、またおいかけてこのような歌い方で、日頃耳にしている歌をより楽しく聴かせてくれました。そして津久見市に450年前から伝わる扇子踊りはとても優雅で力強いものでした。

※(6-7頁は松山が担当しました)

ていたので、限られた時間の中で落ち着いて買い物ができる。行く時の車内でご両親が来るとの声かけに嬉しそうな表情をみせて、現地ですみずお母さんを探して、その後一緒に品物を選べた方、うとうとしながらも穏やかな表情でお父さんと一緒に店内を回り、ソフトクリームをいただいた方、商品に触ったり、周囲をよくみて過ごされた方、周りのお客さんににこにこしながら手を振って自分で洋服を持って職員にみせた方等、買い物を楽しまれたようです。

2011年10月27日

マルショク臼杵店 5名

日程を知ると興奮されて不眠になる方も、職員等の連絡の協力により前日はよく休んで参加できました。途中でご家族の参加もあり、参加者も表情良くされていました。買い物では洋服、DVD、お菓子を購入すると満足気になすかれた方もおられたようです。疲れもあり、帰りは車内で休まれた方も夕食は園で普段通りいただき、買い物に行けたことをとても喜ばれていました。車椅子では寝ていることが多いものの買い物中はよく起きて穏やかに過ごされた方、購入したものをしっかりと手に持っていた方、お父さんと買い物の途中で一緒になって表情良く過ごされた方、買い物の途中から声を出して笑うことが多くなり、鐘や鈴の玩具を耳元で鳴らされるととても良い表情がみられた方他にもうちょっと時間が欲しかった方もおられたようです。



2011年11月24日

マルショク臼杵店 4名

1家族のご参加がありました。普段必要な吸引も買い物の間はすることなく、体調良く過ごされた方、品数も多く保温に注意して買い物を楽しみました。行く時の車内で笑顔がよくみられ、頭を動かして外をみていたり、服を選ぶ時もしっかりと職員をみてくれた方、笑顔はなかったものの欲しいお菓子に自分で手をのばして上手く掴んでいた方、車で移動し、いつもの違ったところでの活動への期待感からかとても良い表情がみられた方、車椅子をとめると「もっと回りたい」といった気持ちを表された方等、皆さんそれぞれに気持ちを表されていました。



2011年11月27日

野津町チャリティーショー出演

第7回歳末たすけあいチャリティーにスマイリーズが出演しました。たくさんのご声援とご協力をありがとうございました。(詳しくは2頁をご覧下さい)



※(施設外療育は佐藤寿洋と竹尾昭彦が担当しました。)

おでかけ

2011年9月8日

パークプレイス大分 6名

現地で2家族にご参加いただきました。昼食は予約していたのでスムーズにでき、何名かの方は日頃めったに口にしないメニューを一生懸命選んでいました。注入の方も違う環境に笑顔を見せて過ごされていました。午後は買い物が済んでいない方は買い物へ、疲れた人は休憩室で休む形で過ごしています。広範囲の活動となりましたが、携帯電話等の連絡で安全に過ごせました。長時間の車椅子利用な方も必要な体位変換ができ、また、実習生も一緒に参加したためか、買い物の選択では手をあげて笑顔で答えたり、荷物も笑顔で積極的に持ったり。店員さんの「いらっしゃい」に同じように気分良く答えたり、煙草の自動販売機をジュースと間違えて車椅子のブレーキをかけたか、皆楽しまれたようです。朝から楽しみにされていて、コップの色や柄を自分で選び、購入後は真剣な表情でみて確認される方もおられました。



2011年9月22日

パークプレイス 6名

前日までの台風の影響もなくなり、良い天候に恵まれました。現地では5家族の参加がありました。8日と同じように、4名の方は日頃食べられないメニューを一生懸命選ばれていました。入眠されていた方がご両親の声かけで目をあけて、お昼からはしっかり起きて過ごされたり、ご家族との買い物で笑ったり、怒ったり、大声を出し、身体を動かす等、たくさん表情をみせて楽しそうに過ごされていました。ご家族との会話を楽しまれた方、母親と一緒にレジで精算された方、現地で両親に会えるか不安だった方、予算内に全て買って満足された方、ご両親と一緒に落ち着いて過ごされ、笑顔も多く、靴下を買う際は目を向けたり、好きな色に手を伸ばす様子もみることができました。日頃味わえない食事や欲しい物が買える等、たくさんの喜びがある活動です。今後も大切な活動だと感じています。



2011年9月29日

マルショク臼杵店 5名

興奮されて前の日に不眠の方が1名おられましたが、店内で車椅子を使用して買い物をすると、雑誌やゲームコーナーでとても良い表情をみせられていました。2家族にご参加いただき、むせたりする方も店内で吸引をさせてもらうことで買い物できました。ご家族によっては事前に下見をされていたので、付き添い職員も安心して過ごしたようです。参加者もしっかりと笑顔で話されていたようです。1時間の活動ですが担当が事前に買う物を入所者と決めて伝達し



地域課 福祉



二〇二一年を振り返って、
そして・・・

主任 井上勝巳

患の聖母の家では、重症心身障害児者の入所施設として、今まで入所者の生活の質の向上に向け多くの取り組みを行ってきました。私も入職して二十三年目となります。当時の入所されている方々もまだまだ若い就学児といわれる児童も多く存在しました。時代の変化とともに、思い障害があっても養護学校（現特別支援学校）へ通うすべもなく、当園のバスによる登校を行っていました。あのような時代から入所されている方々も年齢を重ね、医療的ケアが必要になる方々も増加していききました。また、全国的に総合周産期医療の受け入れ困難な状態による不幸な事件もメディアにて報道されました。

そのNICUから在宅に移行された乳幼児を積極的に受け入れています。人工呼吸器装着のお子さんを受け入れることで、主たる介護者の母親へ休息の時間を取っていただくためでもあります。

今後も医療技術の向上や進展に伴い、超重症児が在宅で暮らすことも増加すると考えられます。さらにニーズは高くなることが予想されます。私たちが患の聖母の家も、その地域のニーズにお応えできるよう準備しなければなりません。

また、一方では、発達障害の外来受診や療育訓練も実施しています。以前では自閉症や知的障害という枠組みでほとんど片付けられていたものが、医学的にも整理され自閉症スペクトラム（典型力ナタイプと非典型アスペルタイプ）といった障害区別されています。その他の発達障害では注意欠陥多動性障害や学習障害、知的障害なども挙げられます。

平成二十四年度四月以降は「医療型児童発達支援センター」の指定をうけたいと考えています。このセンターが稼働するようになれば、専門職を地域の保育園などに派遣して発達が気になるお子さんの指導・助言ができるようになります。そして、障害児の通所を積極的に受け入れることができるよう事業展開する予定です。

児童福祉法や障害者自立支援法の改正により障害児と障害者との法律上の枠組みが整理されます。今後も相談員として医療・福祉サービスについて適切な助言、指導を行っていきたいと考えています。

こだま



この一年

通園こだま 廣瀬 房子

通園「こだま」で仕事をさせて頂くようになり一年が過ぎました。以前は、グループホームで高齢者の介護をしていました。重症心身障害児・者施設で勤めるのは初めてで、日々の仕事を覚える事で精一杯でした。



<さて、何に変身??>



<白雪姫の小人に変身！>

一年間を通して療育活動や行事で利用者様と一緒に過ごした中で、思い出深い出来事は十月に行われた「ふれあい運動会」です。その中で私は競技に使用される衣装制作の担当をしました。運動会の準備は、一ヶ月以上前から、利用者様と一緒に取り組み、制作や練習を頑張ってきました。競技名は「おとぎ話に変身!」。白チーム（白雪姫）赤チーム（桃太郎）にわかれてリレー方式で行い、それぞれの衣装に着替え、物語に出て来る役に変身して頂くと競技です。

当日は親子で一緒に協力し合い、頑張っている姿や、利用者様の良い表情がたくさんみられたりと、親子の絆を感じました。

これからも、療育活動や行事などを通して楽しい時間を過ごして頂けるように仕事に励んでいきたいと思えます。



栄養



研究発表を終えて

栄養士 目原 栄子

昨年九月に行われた、第三十五回日本重症心身障害児学会にて発表する機会を頂きました。演題は「温蔵庫による適温給食の取り組みのために」としました。

適温サービスをしていく中で入所者にとって「適温」とは一体どのくらいの温度をいうのかを考えてみました。食べ物をおいしく食べるには温度管理が必要となります。そこで、温蔵庫の温度設定を六十度設定にし、軟飯の食べ頃は何度ぐらいが適温なのかを調べたところ、配膳時刻や喫食温度、また入所者や介助者への聞き取り調査を取り入れて六ヶ月間の期間の中で平均五十四・四度という軟飯の中心温度が出ました。

このように、毎日の仕事の中で入所者にとってどのように食事提供をしていく事がベストなのかと試行錯誤を繰り返しながら日々の業務に努めています。今後も調理師と力を合わせて利用者に満足して頂けるような食事提供を目指して「笑顔」を忘れず頑張っていきたいと思えます。

最後に、今回のこの研究にあたり協力してくださった皆様、ありがとうございました。無事、発表を終えることができました。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。私にとって今回の研修で数々の話を聞くことができました。その際に受けた刺激を大切に、これからも頑張っていきたいと思えます。

恵の歴史

創立者の思いと祈りのうちに一九六六年（昭和四十一年）に社会福祉法人聖母の騎士会が設立されました。この全ての事業は聖マキシミリ

アノ・コルベ神父様とミロハナ神父様お二人の祈りと愛のわざの目に見える形としての結果です。このお二人の存在がなければ恵の聖母の家の存在もなかったと思えます。時をさかのぼること一九三〇年。ポーランドの国から二カ月の船旅を経て、日本、長崎に上陸されました。来日の目的は宣教活動です。キリストを知らない民族に神の言葉を述べ伝え、マリヤ様について教え、話し、教えを広める目的でした。一九三〇年二月二十六日に祖国ポーランドを出港し、マルセイユ、スエズ運河を通り、インド洋、上海。ここで長崎への連絡船に乗り替えて、長崎に四月二十四日に上陸。この一九三〇年当時の日本の状況は、昭和の恐慌

で不況により、自殺や心中が毎日のように新聞の社会面に載っていて、強盗や殺人者も増え、かなり日本人の心も荒廃していたようです。一九三〇年から長崎に拠点を置いて、出版事業の「無原罪の聖母の騎士」というタイトルの雑誌を発行等、宣教活動に邁進していました。

マキシミリアノ・コルベ神父様は六年間の日本宣教後、ポーランド管区の人事で帰国されました。一人日本に残ることになった創立者のミロハナ神父様は、コルベ神父様の遺業を継いで精力的に働いておられました。一九四一年（昭和十六年）第二次世界大戦が勃発し、一九四五年（昭和二十年）八月に終戦を迎えました。この時、長崎の町には戦争と原子爆弾による被災孤児たちがあふれていて、長崎県ではこの子供たちをどうしたら良いかということでもミロハナ神父様に相談に行ったようです。この被災孤児たちを収容した施設が長崎の聖母の騎士園という養護施設です。一九四九年（昭和二十四年）にこの養護施設で働いていた七名の女性たちからけがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会がミロハナ神父様によって創立されました。創立十年目（昭和三十四年）の記念に、修道会独自の事業として長崎県の方に地域社会が最も必要としている福祉事業という趣旨で相談にあがり、県の要請で一九六一年（昭和三十六年）五月に（社会福祉法人聖家族会）知的障害児施設みさかえの園めぐみの家が発足しました。この施設が両社会福祉法人全ての福祉事業の第一歩です。長崎のみさかえの園の発展と相前後して、佐賀県に社会福祉法人の聖母の騎士会が設置されました。

その後、大分での事業開設までには実に十年の歳月を要しています。土地探しから財政問題等、ゼロからの出発というより、もっと厳しい状態だったときいています。候補地として、一つは別府（現在APU辺り）、二つ目が安心院（アフリカンサファリ辺り）。次が野津町です。この他にも方々を探したようですが、やはりなかなか条件にあったところがなかったようです。野津町になったのは、この町が歴史的にも十六世紀末から十七世紀にかけてキリシタンが栄えたところで、宣教活動の拠点でもあり、キリシタン迫害の時に豊後の最初の殉教者を出したところでもあります。殉教者の強い信仰の血が流されたところときいています。利用者さんが長期にわたる生活の場であるためにできるだけ快適な環境に恵まれ、将来のことを考えて広い敷地であること。官庁関係と連絡の必要上、交通の便が良いこと。土地の価格が安いこと。この条件ですと探して、土地探しの条件にもやっと条件を満たすところが見つかったということです。当時の大分県知事は立木知事で、「あなたたちは神に捧げきった生涯で自分の時間も労力も金銭も全て神さまと隣人に捧げつくすのですね」とおっしゃったそうです。ここに、営利目的ではなく、愛と奉仕の精神の意味が見出せると思えます。そして昭和五十八年十月に重症心身障害児（者）施設恵の聖母の家の事業が始まったのです。

※内容は今年度の園内研修“理念について（総師長牧山）”の内容を広報で編集させていただきました。



保護者の皆様から

はじめまして

佐藤智子

昨年 11 月より入所した佐藤です。中学 3 年生の 6 月頃までは、重度の肢体不自由はありましたが、自分で好きなところに転がったり、ずりばいをしたりして移動し、いつも学校の先生や友達と楽しい時間を過ごしていました。その後、成長期の体調変化により、少しずつ動きがにぶってきたりしましたが、それでも笑顔がたえない明るい子でした。

しかし、17 歳の 4 月に突然の腸回転異常症により、約 1 年、県病に入院。その後入退院を繰り返し、その間、人工呼吸器、胃ろう栄養、そして栄養不足による毎日の点滴というふうに状態が悪くなっていきましたが、それでも家族と一緒に生活することを選択し、自宅で看取るつもりで連れて帰りました。その後体調が回復し、安定した状態が約 2 年間続き、入院もせず過ごすことが出来ました。

ところが、昨年体調を壊し、また入退院を繰り返す様になり、自宅での介護の限界を感じるようになりました。この子の為にも入所した方が良いのではと家族での結論になり、貴施設への入所をお願いしました。日帰りショートしか利用していないままでの入所で、戸惑ってしまうだろうとも思いましたが、本人も私達もここを乗り越えなければと思いました。幸いにも入所当初は少し熱が出たみたいですが、その後は特に変わりなく過ごせているみたいです。何よりもこの子のトレードマークの



笑顔がしっかり出ているとのことで、今は安心していきます。これから親子共々よろしくお願い致します。



支援学校 訪問教室

縁を感じて

大分県立臼杵支援学校 教諭 森山節子

今年度より恵の聖母の家の教室で小学部 3 年生の子どもと学習している訪問教育担当の森山です。

私は、恵の聖母の家に行くと、縁を感じる事が度々あります。10 年前、訪問教育で、家庭へ授業に行っていました。お母さんは子どもさんのケアを「自分がみることができる間はみたい」と、「根性、根性、ど根性」と言い聞かせながら夜中の吸引を適宜していました。しかし、思いはあっても身体の不調が出てきて、医師から「熟睡して身体を整えることが必要」と言われて、毎月 5 日間、恵の聖母の家に子どもを任せようになりました。

それで、時々、私はその子に会いに恵の聖母の家に行っていました。その病室が現在担当している子どもが過ごす病室と同じで、授業で行くたびにここに縁があるなあと感じます。

また、前任校で一緒に過ごした子どもがショートステイの利用でお母さんと恵の聖母の家にやってきたり、お昼の館内放送で誕生者として紹介されたりすると、関わった頃の様子を思い出しながら人との縁を感じます。恵の聖母の家のことを考えるたびに、保護者にも利用者にも大変心強い存在だなと感じさせられます。また、私が授業を安心して行えるのも、子どものケアを相談したときに看護師さんが親身に対応してくださることに支えられています。

今後も、施設の方々のお力を貸していただきながら、子どもが気持ちよく過ごしていけるように努力していきたいと思っています。よろしく申し上げます。



★ ぴかぴか ぴかぴか ぴかぴか ★



今年度に入られたスタッフをご紹介します。①お名前②職種③お住まい④趣味⑤一言

①後藤真美さん②看護師③大分市④音楽（ポップス）を聴きます。スキマスイッチをよく聴いています。④まだまだ利用者さんと上手く関わっていないので頑張りたいです。

人事

▼退職
看護師 荒木初美様
林 智恵様

(H23年12月31日付) ありがとうございます。今後の活躍をお祈りしております。



▼新採用
看護師 後藤 真美様
(H23年10月1日)

表彰

永年勤続者表彰
▽二十年表彰
亀山 真智美様

上野 智恵美様
平山 三枝子様
芦刈 朝寿様

▽十年表彰

阿南 美栄様
植田 貴浩様
安藤 京子様
赤嶺 綾様
足立 輝美様
浦松 崇宏様
河野 潤二様
大津 留佳恵様
佐藤 寿洋様
児玉 陽子様

寄贈

歳末助け合いチャリティ募金
野津町社会福祉協議会様からポインセチアなどお花をいただきました。お花はクリスマスの集いで会場に飾らせていただきました。会場がとても華やかになり、楽しい集いをする事ができました。ありがとうございました。



施設見学

二〇二一年六月に当園から二班に分けて長崎県にありますが姉妹施設重症心身障害児(者)施設みさかえの園様に施設見学をさせて頂きました。参加者の感想の一部をご報告します。対応していただいたみさかえの園の職員の皆様改めて感謝申し上げます。(文責 松山)

◆生活福祉課

あゆみの家の福祉部門では「生活支援」と「活動支援」に業務を分担していること、二十種類以上の中から利用者が選択し、毎日のように展開されている活動があること、むつみの家では「在宅、外来利用者の声や要望を一つひとつ吸い上げ、設備やサービスを検討し、必要な資源として利用していただける施設に職員が丸となって取り組んだ」とのお話に「利用者を第一に、就労支援に至る施設サービスの事業努力」を感じました。

▼各専門性を活かし、気持ちを一つにして共有とチームワークが必要なこと、この気持ちになるまで長時間の意見交換を行なったと教えていただきました。

◆看護課

「短期入所利用者への対応」「在宅の方は次の入所へのお客様である」「看護も福祉部門も目標を一つにして切磋琢磨している」「職員も大切な資源の一つである」

「等々をお聴きし、日々の業務をもう一度再確認するいい機会となりました。職員全体が利用者の笑顔のために仕事をしていると感じました。▼求められていることが何か、親と十分話し合い、会話を大切に満足いただけるように援助していこうと感じました。▼「生活環境の大切さ」「その人がその人らしく生きること」が感じられる支援を共感しつつ実施していきたいと深く考える機会となりました。

◆訓練課

各課きちんと連携をとって目標に向かって各の専門性を発揮して前進しているところが素晴らしい、与えられた役割や職務をきちんと果たすことが私たちの第一歩と感じました。

◆管理課(事務・栄養課・営繕)

いきいきとした説明や建物を使いやすく工夫していること、県や地域の期待と希望に添えていく姿勢に基本理念からぶれていないと認識させられました。▼「新しいものを要求することは簡単だが、利用者が快適に過ごせているのかはわからない」とうかがい、先の視野を広げて新しい情報を取り入れながら日々笑顔で楽しくふれあっていたらと思います。▼医療用ワゴン車やテープ保管パネル等、スーパードクターの仕事を拝見し、快適に日常生活を送れるように様々な工夫をされている動きが今後の参考になりました。

行事予定

※青色…施設外療育 ◎…ケースカンファレンス ㊦…個別
 面談 ㊧…権利擁護委員会 ㊨…全体朝礼 ㊩…労働安全衛
 生委員会 ㊪…リスクマネジメント部会 ㊫…入浴日

1月			2月			3月		
1	日	お正月行事	1	水	㊫	1	木	
2	月	書き初め	2	木		2	金	㊫
3	火	㊫	3	金	㊫	3	土	
4	水	㊧㊨㊩	4	土		4	日	
5	木		5	日		5	月	㊫
6	金	㊫	6	月	㊫	6	火	㊧㊨㊩㊪
7	土		7	火	㊧㊨㊩	7	水	㊫
8	日		8	水	㊫	8	木	
9	月		9	木	行事委員会	9	金	㊫
10	火	㊫	10	金	㊫	10	土	動物ふれあい
11	水		11	土		11	日	
12	木	行事委員会	12	日		12	月	㊫
13	金	㊫	13	月	㊫	13	火	㊪
14	土		14	火	㊪	14	水	㊫
15	日	誕生会	15	水	㊫	15	木	㊪
16	月	㊫	16	木	㊪	16	金	㊫
17	火	㊪	17	金	㊫	17	土	
18	水	㊫	18	土		18	日	誕生会
19	木	㊪	19	日	誕生会	19	月	㊫
20	金	㊫	20	月	㊫	20	火	
21	土		21	火	㊪	21	水	㊫
22	日		22	水	㊫	22	木	
23	月	㊫	23	木		23	金	㊫
24	火	㊪	24	金	㊫	24	土	
25	水	㊫	25	土		25	日	
26	木		26	日		26	月	㊫
27	金	㊫	27	月	㊫	27	火	㊪
28	土		28	火	㊪㊫	28	水	
29	日		29	水	㊫	29	木	㊫
30	月	㊫				30	金	
31	火	㊪㊫				31	土	㊫

※予定変更の場合があります。

※写真掲載は保護者・成年後見人から許可を頂いています。

編集後記

第22号が発行できて2011年度の園内報を皆様のお手元に全て届けることができました。ご協力いただいている皆様に感謝です。“恵らしさが伝わって来る”とありがたいお言葉もいただいています。これからもよろしくお願い申し上げます。(S・M)